

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは11月30日（木）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		11月29日現在 (矢印は10月末比)	12月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 147.24	↘ 142.00 ~ 152.00
	年末にかけて円高・ドル安基調		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.097	⇒ 1.00 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円)	↗ 161.52	↘ 145.00 ~ 170.00
	ドル安一服でユーロの上値は重い		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.270	⇒ 1.20 ~ 1.32
	ポンド・円 (円)	↗ 186.93	↘ 180.00 ~ 195.00
	景気減速懸念から上値は重い		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 97.43	⇒ 96.00 ~ 99.00
	NZドル・円 (円)	↗ 90.62	⇒ 89.50 ~ 92.50
	良好なリスクセンチメントでオセアニア通貨は選好されやすい		
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 33,321	⇒ 32,000 ~ 34,500
	バブル後の高値を再度試す展開か		
	NYダウ (ドル)	↘ 35,430	↘ 33,000 ~ 36,500
長期 金利	利下げ期待から底堅い展開を見込む		
	日本 (%)	↘ 0.675	↗ 0.60 ~ 0.90
	インフレ高止まりのなか、金利上昇基調が継続		
	米国 (%)	↘ 4.255	↘ 4.00 ~ 5.00
	雇用・インフレ関連指標の減速が続けばFRBは利上げ終了へ		

◆ 今月の注目ポイント

マイナス金利解除に向け国内指標に注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【日銀】FRB及びECBの利上げサイクルが終了したと見られる中、いよいよ日銀の動向が注目される。4日には第1回目となる「金融政策の多角的レビュー」に関するワークショップが行われる。来年度の賃金動向を占う春闘の闘争方針も、今月初旬には決定する。国内の消費者物価指数が高止まりする中で、日銀の初動を見極めるためにも、今月発表される4Q日銀短観や3QGDP2次速報、各種物価指標等は一段と重要になる。18-19日の日銀金融政策決定会合とその後の植田総裁の記者会見の注目度は高い。
景気	○	【米欧景気動向】FRB及びECBの金融政策は金利の引き上げから、高金利の長期維持ヘシフトし、経済指標等からの景気物価動向の見極め段階となっている。ここまで各種景気物価指標は軟化してきているが、累積的な利上げの効果は今後出てくる可能性も。直近ではここまで強かった米国の個人消費が、今年の年末商戦でも堅調さを維持できるかが注目される。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	⇒ 19.72 ~ 21.87	ルピー・円	↘ 1.70 ~ 1.83
バーツ・円	⇒ 4.00 ~ 4.50	ウォン・円	⇒ 11.20 ~ 11.70
ルピア・円	⇒ 0.90 ~ 1.00		

◆ 今月の重要日程

1日(金) 米	11月ISM製造業	14日(木) 欧	ECB理事会〈結果発表〉
4日(月) 日	日銀「金融政策の多角的レビュー・第1回ワークショップ」	15日(金) 中	11月生産・小売・投資
8日(金) 米	11月雇用統計	18日(月) 欧	12月PMI
12日(火) 米	11月CPI	19日(火) 日	日銀金融政策決定会合
13日(水) 米	FOMC〈結果発表〉	22日(金) 日	11月CPI
14日(木) 英	BOE金融政策委員会	25日(月) 米	Christmas Day (米市場休場)

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

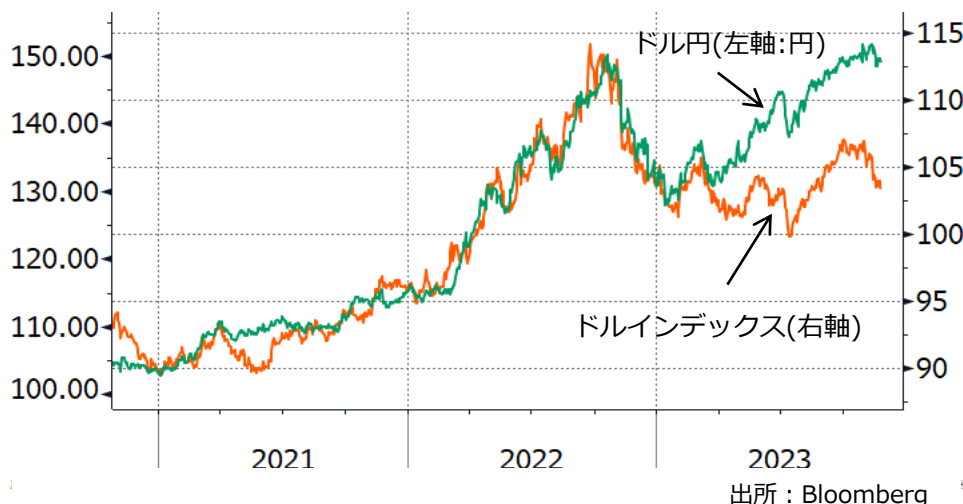
(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

142.00 - 152.00円

年末にかけて円高・ドル安基調

10月のドル円相場は引き続き150円を挟んだレンジでのみみ合いとなった。10月末の日銀会合で10年金利の上限の事実上の撤廃が行われたが、市場では緩和継続との受け止めからむしろ円安が進行する展開となっていた。ドル円は一時約一年ぶりとなる151円台後半まで上昇した。

一方、11月に入ってから、米国の景気や労働市場の減速を示唆する経済指標が相次ぎ、夏から秋にかけて広がった米国経済に対する楽観論は後退した。また、10月の米長期金利上昇に対する警戒感からFRB高官の発言がハト派シフトした点、米インフレ指標が市場予想を下回った点、米国政府閉鎖を回避できたこと等から、中旬以降は米金利が大きく低下し、為替市場でもドル高からドル安への転換が見られた。ただし、株価の上昇に伴うリスク選好の改善もあり、ドル安円安トレンドのなかでドル円の値幅は他の通貨ペア対比では限定的であった。

12月以降も雇用・景気・インフレ関連の経済指標で引き続き減速傾向が確認されれば米金利の低下とともにドル安圧力がかりやすい。また、日銀は早ければ来年1月にもマイナス金利解除を含めた政策変更を行う可能性があり、年末にかけては日米金利差縮小への思惑からドル円は下落しやすくなるだろう。ダブルトップを形成した152円を再びトライする勢いはないだろう。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは横ばい

1.00 - 1.15ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

145.00 - 170.00円

ドル安一服でユーロの上値は重い

11月のEURは対USD、対JPY共に大きく上昇。USDがFRBの利上げ打ち止め及び先行きの利下げ期待の高まりから下落したことを受け、上昇した。対JPYでは一時2008年以來となる164円台を付ける場面もあった。

12月のEURは上値の重い展開を見込む。足もとのドル安の流れは一服すると見られ、FRB・ECB双方とも政策金利を「高く長く」維持するとの見方から、EURUSDはもみ合いが見込まれるが、米欧の景況感の格差がEURの上値を抑えよう。金融政策面では政策金利は据え置きが見込まれるものの、ラガルド総裁が現状24年末まで再投資としているPEPP(パンデミック緊急購入プログラム)について見直し(終了時期の前倒し)を示唆しており、今月のECB理事会で何らかの議論が行われるかは注目される。対JPYでは下落を予想。欧州が利上げから政策金利の長期維持へと移行する一方、日銀は引き続き先行きの政策変更への思惑が燃えることからEUR安JPY高を見込む。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

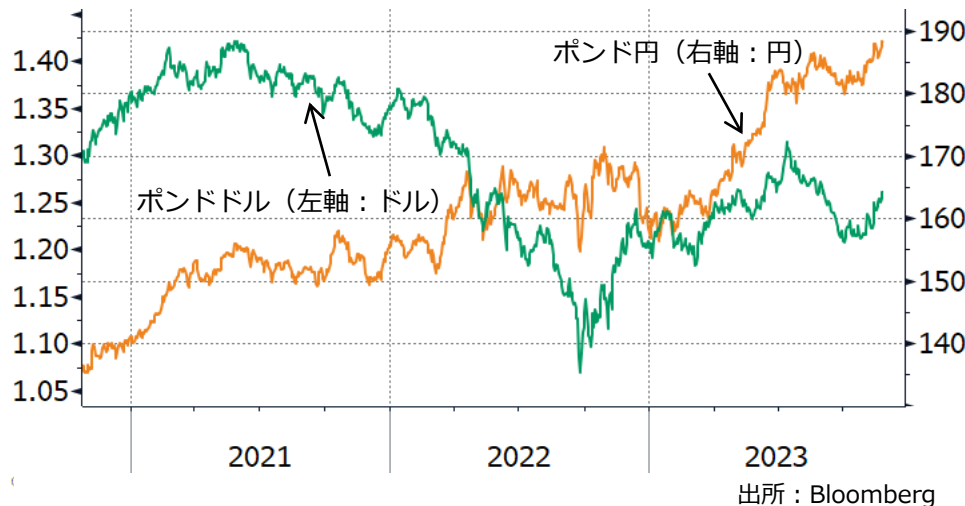
(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



ポンドドル

⇒ ポンドドルは横ばい

1.20 - 1.32ドル

ポンド円

⇒ ポンド円は下落

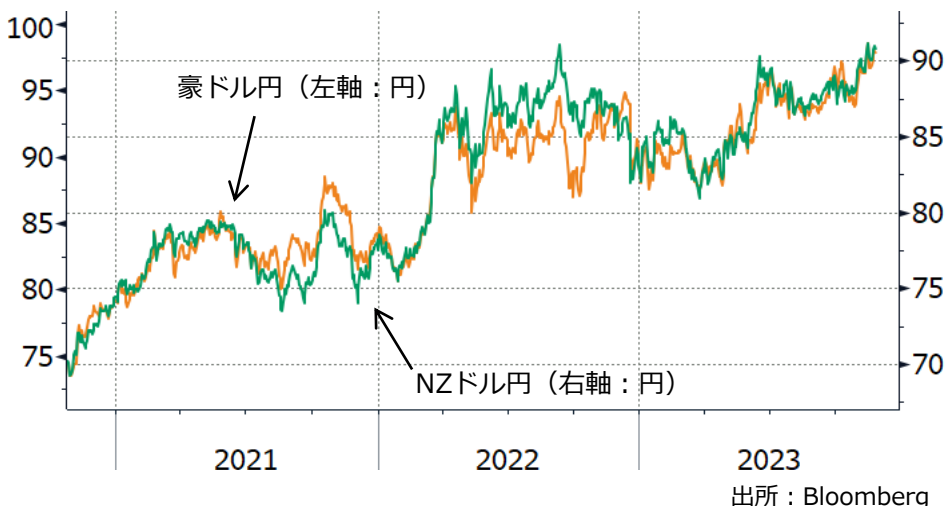
180.00 - 195.00円

景気減速懸念から上値は重い

11月のGBP相場は対USD、対JPY共に上昇。USDがFRBの利上げ打ち止め及び先行きの利下げ期待の高まりから下落したことを受け、上昇した。

12月のGBPはもみあいを予想する。米英共に政策金利の引き上げサイクルは概ね終了したと見られる中、先月までのUSD安の流れは一服すると見られることや、英国経済は米国対比で弱く、上値は重くなりやすい。一方、賃金やPMIなどは底堅いことからインフレの高止まりも意識されやすく、下値も限定的となろう。14日に行われるMPCでは政策金利の据え置きを見込む。前回会合ではインフレの鈍化もあり、6対3での政策金利据え置きが決定しており、前々回の5対4から徐々に据え置きを見込むメンバーが増えている。対JPYでは英政策金利が据え置かれる一方で、日銀は先行きの政策修正期待が燃えることから、上値の重い展開を予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

⇒ 豪ドル円は横ばい

96.00 - 99.00円

NZドル円

⇒ NZドル円は横ばい

89.50 - 92.50円

良好なリスクセンチメントでオセアニア通貨は選好されやすい

11月のオセアニア通貨は対円で上昇となった。月初から金融政策の違いから豪ドルとNZドルは対円で上昇。豪中銀の利上げや良好な雇用状況を受け、豪ドル円は堅調に推移。米国CPI下振れを受け、FRBの利上げ終了観測が強まると、株高によるリスクセンチメント改善を背景に、豪ドルとNZドルは選好された。月末にNZ中銀は政策金利を据え置きにしたが、25年半ばまで利上げなしとタカ派メッセージを発信すると、NZドル円は上昇した。

12月も豪ドル、NZドルは引き続き選好されやすいが、円も買われやすい状況の中、豪ドル円とNZドル円はもみ合う展開になりやすい。CPIの下振れを受け、豪中銀は今月利上げを見送るだろう。良好な雇用状況や底堅い鉄鉱石価格が引き続きサポートとなりやすいとみる。FRB高官のハト派寄りの発言から株式市場の良好な地合いが継続しやすく、リスクセンチメントが豪ドルとNZドルの買い材料となる。12月から日本の賃上げ関連報道の増加が見込まれる。下旬にマイナス金利解除の思惑が強まれば、豪ドル円とNZドル円は上昇幅を縮小しやすいだろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

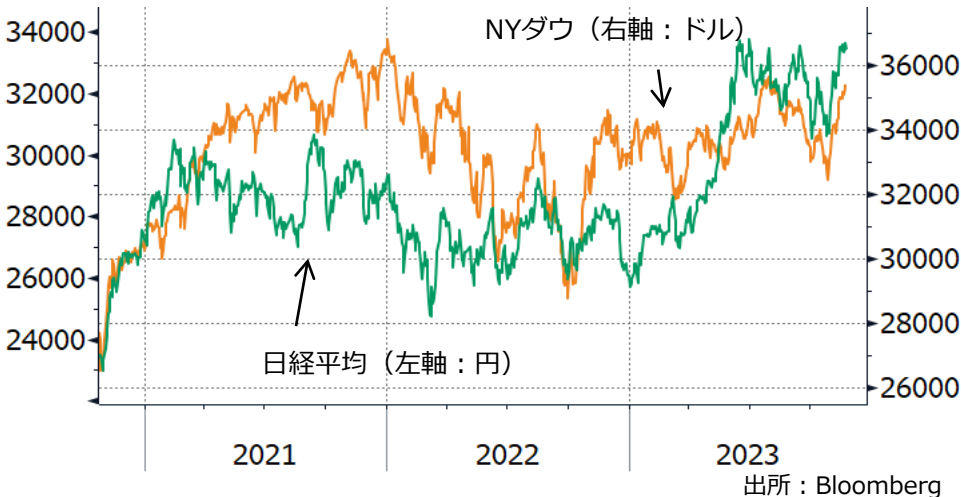
(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

日経平均は横ばい

32,000 – 34,500円

バブル後の高値を再度試す展開か

11月の日経平均は米金利が低下したことや堅調な企業の中間決算を受け大きく上昇し、バブル後の最高値を更新した。12月の日経平均も底堅い展開を見込む。好調な企業決算を受け割高感が解消されていることや、米金利低下に伴うハイテク株高が株価を下支えしよう。一方、年明けに向けて日銀金融政策の修正への思惑も燃えることから、徐々に上値は重くなると見る。

NYダウ

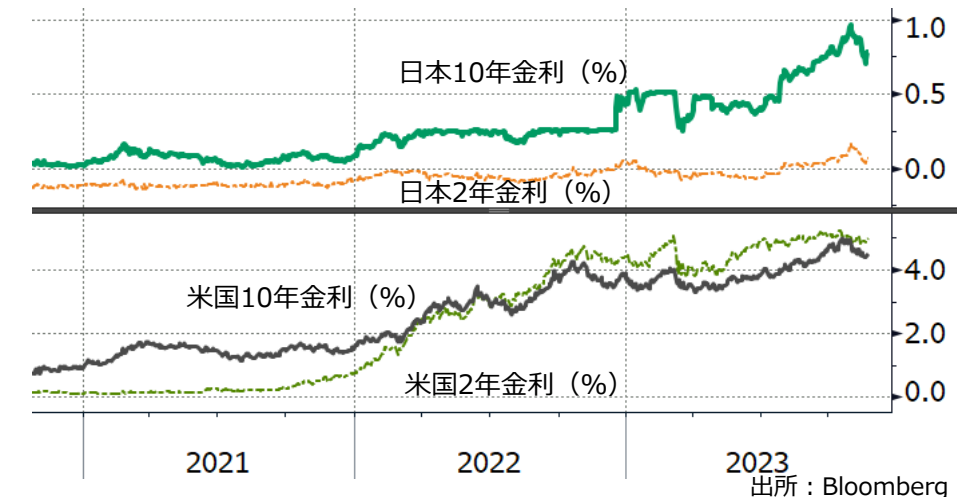
ダウは横ばい

33,000 – 36,500ドル

利下げ期待から底堅い展開を見込む

11月のダウ平均は大幅上昇。経済指標が軟化し米景気のソフトランディング期待が再度高まったことや、先行きの利下げ期待、政府閉鎖が回避されたこと等から大きく上昇した。12月のダウ平均も底堅い展開を見込む。ソフトランディング期待が継続する中では株価は底堅く推移すると見る。一方で、先行きの利下げ期待はやや楽観的であり、株価の上昇は引き締め効果を低減してしまうことから、FRBがタカ派的なメッセージを打ち出した場合は上値が重くなる可能性も。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

金利は上昇

0.60 – 0.90%

インフレ高止まりのなか、金利上昇基調が継続

11月の国内金利は低下した。海外金利が大きく低下したことや、日本の7-9月期GDPのマイナス幅が市場予想を上回り、早期の日銀利上げ観測が後退したこと等が背景。ただし大きく金利が低下した局面では日銀の買い入れオペ減額等もあり、金利低下は一服した。国内のインフレ指標は高止まりが続いており、日銀が今後正常化に向かっていく方向性自体には変わりはない。国内金利は早ければ1月にも予想されるマイナス金利解除に向けて、緩やかに上昇していくと見る。

米国債10年

金利は低下

4.00 – 5.00%

雇用・インフレ関連指標の減速が続けばFRBは利上げ終了へ

11月の米長期金利は大きく低下した。10月の長期金利上昇を受け、FRB高官の発言がハト派的にシフトしたことや、10月分のCPIが市場予想を下回ったことから、FRBによる今後の利上げ期待が急速に後退し、長期金利の低下を促した。政府閉鎖を回避したことも長期債の買い安心感に繋がった。12月も雇用統計やインフレ指標の減速が続けば年末にかけて金利低下基調となりやすい一方、過度な利下げ期待にはFRBの牽制も入りやすく、金利低下幅も限定的か。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

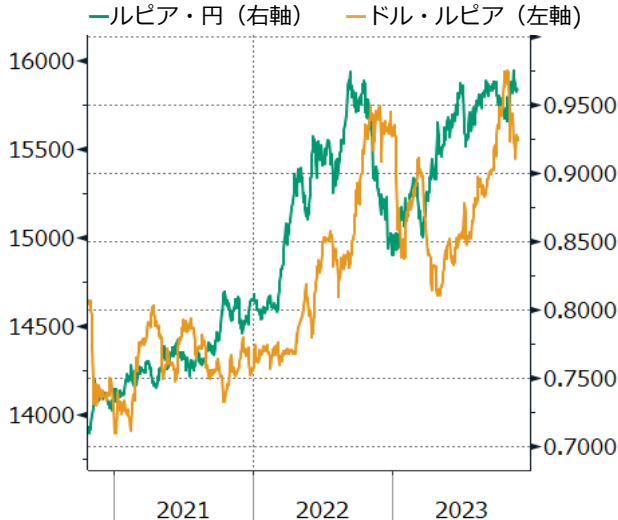
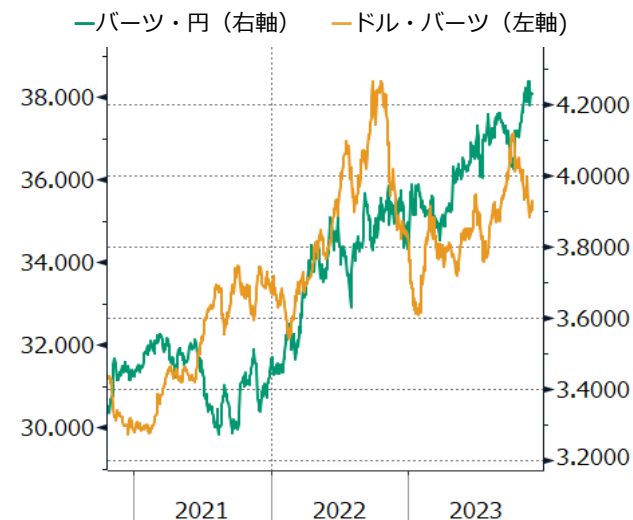
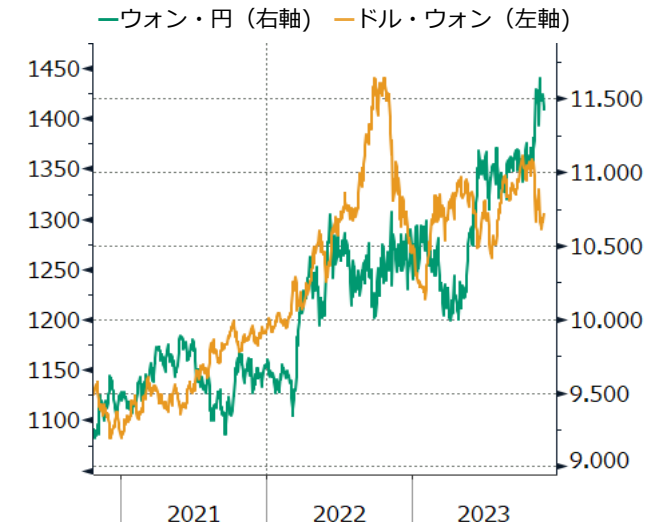
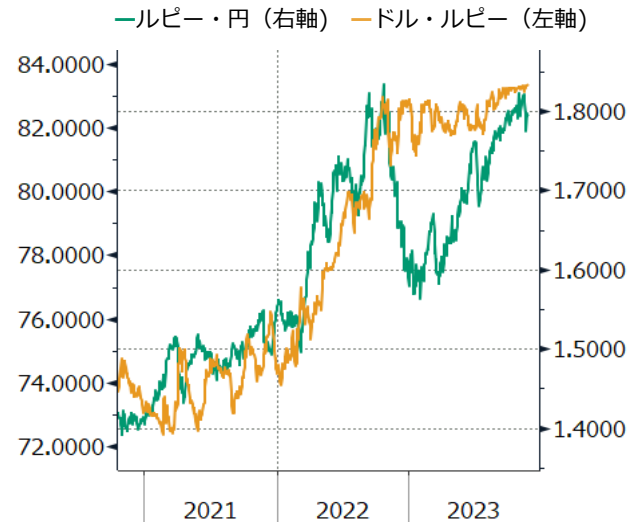
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 新興国通貨チャート



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2023年12月号)

2023/11/30
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		11/29	11月の相場推移		12月の予想		解説
中国	人民元/円	20.61	➡	20.43～20.94	➡	19.72～21.87	米国景気鈍化によるドル売り主導で11月にドル人民元は下落した。中国の財政・金融ポリシーミックスへの期待が人民元のサポート材料となりやすいとみる。米中首脳会談を経て米中関係に改善の兆しが表れ、地政学緊張感の後退も好材料。ドル人民元が200日移動平均線を下回った中、年末の中国輸出企業のドル売り人民元買いのフローがさらに出やすく、ドル人民元を押し下げるだろ。
	ドル/人民元	7.143	➡	7.11～7.34	➡	6.95～7.20	
タイ	バーツ/円	4.230	➡	4.17～4.29	➡	4.00～4.50	GDPや貿易収支が下振れしたものの、観光業の回復への期待やドル売りを受け、11月のドルバーツは下落した。11月のタイ中銀会合からタイ中銀は据え置きに入った。ただし、バーツの為替レートの安定性重視の姿勢は好感されるだろう。中国観光客誘致策が徐々に奏功し、バーツの好材料となりやすい。消費者信頼感に影響を及ぼしていないが、家計債務問題を注視したい。
	ドル/バーツ	34.81	➡	34.58～36.33	➡	33.5～35.5	
インドネシア	100ルピア/円	0.957	➡	0.94～0.97	➡	0.90～1.00	11月にインドネシアの貿易収支の上振れやFRB利下げへの期待によるドル売りを受け、ドルルピアは下落。11月の中銀会合ではルピアの増価を受け、インドネシア中銀が政策金利を据え置いた。12月FRBは利上げを見送った場合、インドネシア中銀も追随する可能性が高い。引き続き輸出の回復が見込まれ、経常収支の更なる改善がルピアのサポート材料となるだろう。
	ドル/ルピア	15,395	➡	15,360～15,951	➡	15,200～15,700	
インド	ルピー/円	1.769	➡	1.76～1.82	➡	1.70～1.83	貿易赤字の大幅拡大を受け、11月のルピーは対ドルで減価した。食料価格による上振れリスクがあるものの、インフレは基本的にインド中銀の予想範囲内にあるため、12月の会合では政策金利が据え置かれるだろう。インドへの直接投資の増価が見込まれるが、原油輸入の拡大による貿易赤字拡大やロシア中銀が決済通貨としてルピーを拒否する可能性がルピーのネガティブ材料となるだろう。
	ドル/ルピー	83.33	➡	83.01～83.50	➡	83.00～84.00	
韓国	100ウォン/円	11.433	➡	11.11～11.67	➡	11.20～11.70	半導体セクターの改善や貿易収支の黒字転換を好感し、11月のウォンは対ドルで大幅上昇し、アジア通貨でも強かった。CPIの上振れを受け、韓国中銀は政策金利を据え置きにしたが、引き続きインフレに対して警戒感を示しており、ウォンのサポート材料となる。米国金利低下を受け、半導体銘柄主導で韓国株が上昇しやすく、ウォンの好材料となりやすい。
	ドル/ウォン	1,289	➡	1283～1,359	➡	1,260～1,310	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年12月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

2023/11/30

◆ 年間為替見通し

		2023年	2024年				ポイント
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月		
ドル円	レンジ	142～152	130～150	125～145	120～140	FRBの利上げ停止と日銀の政策修正により、日米金利差が縮小し、徐々に上値が重くなる。	
	期末値	145	140	135	130		
ユーロドル	レンジ	1.00～1.15	0.95～1.10	1.00～1.15	1.00～1.20	ECBの利上げサイクルは終了した可能性が高く、今後は現状の政策金利をどこまで維持するかが注目される。ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強く、EURの上値は重い。	
	期末値	1.05	1.00	1.05	1.08		
ユーロ円	レンジ	145～170	135～160	130～155	125～155		
	期末値	153	140	142	141		
ポンドドル	レンジ	1.20～1.32	1.10～1.30	1.10～1.30	1.10～1.30	ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強く、GBPの上値は重い。一方、労働需給のひっ迫や、賃上げ等からインフレは高止まりしやすく、高い政策金利をどこまで維持するかが注目される。	
	期末値	1.22	1.20	1.25	1.25		
ポンド円	レンジ	180～195	150～180	140～170	140～170		
	期末値	177	168	169	163		
ドル人民元	レンジ	6.95～7.20	6.80～7.20	6.60～7.10	6.40～6.90	中国当局の景気支援方針で中国経済が徐々に回復していく。FRBによる利下げ期待から米中金利差は縮小し、ドル人民元を押し下げる。米中関係の改善も人民元の好材料。来年からグローバル製造業の本格回復で貿易黒字が拡大し、人民元買いにつながる。	
	期末値	7.00	6.90	6.70	6.50		
人民元円	レンジ	19.72～21.87	18.06～22.06	17.61～21.97	17.39～21.88		
	期末値	20.71	20.29	20.15	20.00		
豪ドル円	レンジ	85～105	75～95	70～90	70～90	足元底堅く推移するも年末に向けて日銀政策修正の思惑で上値が重くなりやすい。	
	期末値	98	90	85	85		
タイバーツ円	レンジ	4.00～4.50	3.60～4.70	3.50～4.50	3.40～4.50	観光業の回復、景気支援策から当面の間底堅く推移。年末に日銀政策修正織り込みで対円で下落を予想。	
	期末値	4.20	4.12	4.09	4.06		

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年12月号)りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

2023/11/30

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
12/1(金)	10月労働力調査 7-9月期法人企業統計調査	11月ISM製造業景況指数	(中) 11月製造業PMI
12/4(月)		10月製造業受注	
12/5(火)	10年債入札	11月ISM非製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会
12/6(水)		10月貿易収支 11月ADP雇用統計	(中) 11月貿易統計
12/7(木)	30年債入札		
12/8(金)	10月家計調査 10月毎月勤労統計 (速報) 11月景気ウォッチャー調査 7-9月期GDP (二次速報値)	11月雇用統計	
12/9(土)			(中) 11月CPI
12/11(月)		10年債入札 3年債入札	
12/12(火)	11月企業物価指数 5年債入札	11月CPI 30年債入札	(独) 12月ZEW景気指数
12/13(水)	10-12月期日銀短観	11月PPI FOMC (結果発表)	
12/14(木)	10月機械受注 20年債入札	11月小売売上高	(英) BOE金融政策委員会 (欧) ECB定例理事会
12/15(金)		12月NY連銀製造業景気指数	(中) 11月生産・小売・投資
12/16(土)			(他)日ASEAN特別首脳会議 (~17日)

	日本	米国	その他
12/18(月)			(独) 12月IFO企業景況感指数
12/19(火)	植田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)	11月住宅着工・許可件数	
12/20(水)	11月貿易統計	11月中古住宅販売 12月消費者信頼感指数 20年債入札	
12/21(木)		12月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 7-9月期GDP (確定値)	
12/22(金)	11月消費者物価指数 日銀金融政策決定会合議事要旨 (10/30~31開催分)	11月個人所得・消費支出 11月新築住宅販売	
12/25(月)		(クリスマス)	
12/26(火)	11月労働力調査 2年債入札	2年債入札	
12/27(水)	11月住宅着工件数	5年債入札	
12/28(木)	11月鉱工業生産	7年債入札	
12/29(金)			
12/31(日)			(中) 12月PMI



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/27～11/2】

◎ 1～9月の物流総額4.8%増、政策効果

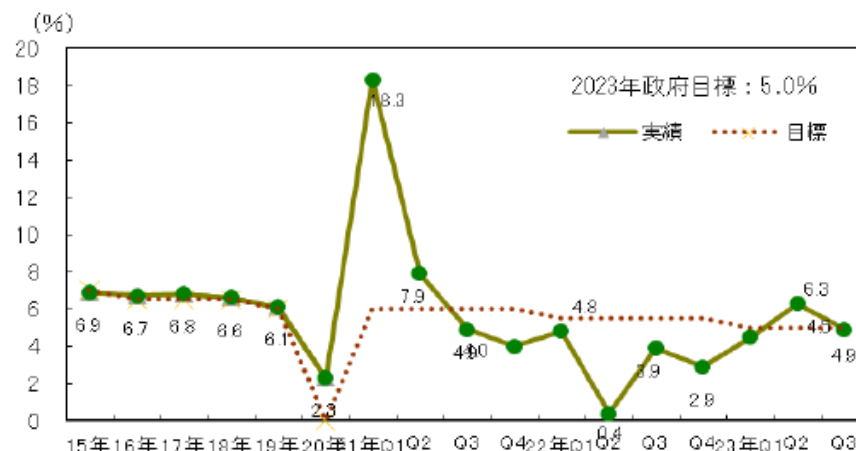
中国物流購買連合会が28日発表した2023年1～9月の物流総額（流通した物品の価値総額）は前年同期比4.8%増の249兆元（約5,090兆円）だった。伸び幅は1～8月から横ばい。経済安定に向けた一連の政策による効果が7月以降に出て、物流需要の安定につながった。そのうち、工業品の物流総額は4%増の220兆元、消費分野は8.4%増加し、輸入物流総額は13.7%増加。中国物流購買連合会は物流需要の回復や企業の投資拡大、政策効果などを追い風に、23年通年の物流総額は前年比4.5～5%増になるとみている。

【11/3～11/9】

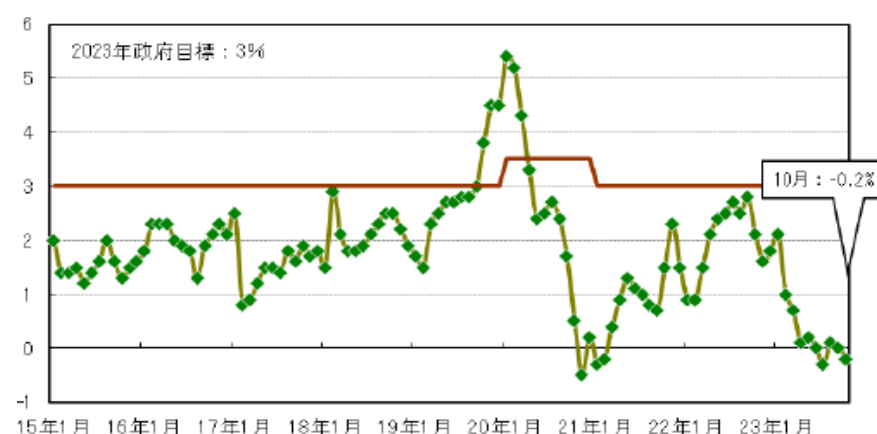
◎ 外資の中国投資、3Qに過去初のマイナス

中国国家外貨管理局が3日発表した2023年第3四半期（7～9月）の国際収支（速報値）は海外から中国への直接投資（FDI）が118億米ドル（約1兆7600億円）のマイナスとなった。外資企業による撤退と事業縮小が外資企業の新規投資を上回ったことになり、統計を確認できる1998年以降では初のマイナスである。資本・金融収支のうちFDIの収支は中国から海外への流出が540億米ドル。海外から中国への流入はマイナス118億米ドル（実質的には118億米ドルの流出と同義）で、FDIは658億米ドルの純流出となった。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2023年12月号)2023/11/30
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【11/10～16】

◎ 会計事務所の監督強化、データ国外持ち出し規制

中国財政省は13日、会計事務所のデータ安全管理の規則案を発表した。データ安全法やインターネット安全法などに基づき、会計データの国外への持ち出しを規制し、監督を強化する。12月11日まで意見を公募してから導入する方針。外資系企業の会計業務にも影響が出る可能性がある。規則案で会計事務所は会計資料やデータを中国国内に保存しなければならないと規定。中国内の案件の情報を国外の監督機関に提出しないよう求めた。国内関係当局の要請に応じて資料やデータを提供するよう求め、違反があれば処罰する。

【11/17～23】

◎ 在中日系企業、事業拡大意向が初の3割割れ

日本貿易振興機構（ジェトロ）が21日発表した2023年版の「海外進出日系企業実態調査」によると、今後1～2年の中国での事業拡大意向は27.7%となった。比較可能な07年以降で初めて3割を下回った。一方で第三国への移転・撤退は0.7%にとどまり、ジェトロは「政策などを含め厳しい局面にある中でも、引き続き中国市場を重視する日系企業が多数だ」と分析した。また23年の営業利益見込みは「黒字」とした企業が60.3%で、前年の64.9%から下がった。赤字は20.2%だった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10
実質GDP成長率	%	2.9	-	-	4.5	-	-	6.3	-	-	4.9	-
消費者物価上昇率	%	1.8	2.1	1	0.7	0.1	0.2	0	-0.3	0.1	0	-0.2
都市部調査失業率	%	5.5	5.5	5.6	5.3	5.2	5.2	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0
輸出額	10億ドル	296.9	284.9	209.0	303.3	289.5	281.8	284.1	281.3	284.5	298.9	274.8
輸入額	10億ドル	227.9	192.9	197.0	225.8	203.4	216.4	214.6	201.5	216.6	221.3	218.3
経常収支	100万ドル	401,855	-	-	81,530	-	-	146,257	-	-	208,857	-
外貨準備高	10億ドル	3,127.7	3,184.5	3,133.2	3,183.9	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.98	6.79	6.84	6.89	6.89	7.00	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中医薬入りドリンクを飲みませんか？

最近、あるニュースを見ました。今若者の間では「中医薬入りドリンク」が流行しており、ネットで話題になっています。

薬局や医薬品企業も業界の垣根を越えてドリンクショップを開設し、ミルクティーやコーヒーショップと勝負するようになりました。

「中医薬入りドリンク」はどのような飲み物かというと、中医薬を使い、季節に合わせた、一定の治療効果がある飲み物です。

例えば夏は夏バテ予防ドリンク「酸梅湯」（烏梅、サンザシ、陳皮、桂花、甘草、氷砂糖などで作った甘酸っぱい飲み物）、秋や冬など乾燥しやすい季節は喉や肺を潤す「小吊梨湯」（梨、棗、枸杞の実、百合、竜眼、氷砂糖で煮込んで作った甘い飲み物）、また仕事でよくパソコンに向かって、目を多く使うサラリーマンに向いている「枸杞菊花茶」（枸杞の実、菊花一緒にいれたお茶）など、いろいろな種類があります。

ドリンク店が提供する中医薬入りドリンクの多くには砂糖の代わりに「甘草」などの甘みのある生薬が使われており、生薬の苦みや酸味、渋みなどを和らげ、美味しく飲めるそうです。なんだか健康的でよいですね。ちょうど「ダブル11」（各ECサイトで11月11日に行われる大規模な販促イベント）がスタートし、各ECサイトではきっとこういう物がよく売れると思います。私も少し枸杞の実や菊花を買ってみようかと考えています。

○久しぶりのコンサート

週末、久しぶりにコンサートを聴きに行きました。

コロナ時期ではなかなか開けなかったですが、最近上海ではいろいろなコンサートを開催できるようになりました。

今回のコンサートは家の近くの保利大劇場で開催し、この劇場は日本の有名な建築デザイナー安藤忠雄さんが設計しました。彼は中国でも知名度が高く、時々展示会も開きます。保利大劇場は普段コンサートはなくても、人気の観光スポットとして見学者が多いです。私も季節ごとに雰囲気異なる保利大劇場を楽しんでいます。

今回のコンサートのテーマは「クラシックを好きになる」で、主に有名なクラシック曲の演奏が多かったです。

一時間ちょっとのコンサートで、きれいな曲に魅了され、こころが癒されました。音楽は本当に素敵だと思います。少し聞いただけでも、人をリラックスさせて、一時的に普段の生活から離れて、完全に音楽の世界に浸ることができます。

来月は違うコンサートを聴きに行こうと考えています。



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年12月号)

2023/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆観光業や民間消費が経済回復を後押し

タイ中央銀行は、2023年9月のタイ経済は引き続き回復傾向を維持したとの見方を示した。観光客の消費が経済回復を引き続き支えている。民間消費指数は前年同月比6.3%増加した。民間投資指数は建設投資と機械・設備投資とともに減少を受け、同3.6%減に落ち込んだ。鉱工業生産指数は同6.1%低下し、12カ月連続の下落となった。食品・飲料、ゴム・プラスチック製品、ハードディスク駆動装置（HDD）等の生産は増加した。一方、金融機関の融資審査の厳格化が続いてピックアップトラックの生産は不振だった。

◆2023年10月CPI、前年同月比0.31%下落

タイ商務省が発表した10月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比で0.31%下落し、25カ月ぶりのマイナスとなった。前月比で0.28%下落となった。政府が電気料金や軽油小売価格を引き下げたことや、食肉や生鮮野菜等の出荷量の増加を原因に挙げた。分野別では、食品・飲料が前年同月比0.65%減、非食品が同0.09%減とそれぞれ下落した。

◆2023年9月輸出額、2カ月連続プラス

タイ商務省によると、2023年9月の輸出額は前年同月比2.1%増の254億7,630万米ドルと、2カ月連続のプラス成長。ドリアンやマンゴスチン、コメ等の輸出増加に支えられた。農産物・加工品の輸出は前年同月比12.0%増加したが、主要工業製品は同0.3%減と前月のプラスからマイナスに転じた。減少したのは、バイク・同部品（同34.6%減）、アルミニウム製品（同15.8%減）、コンピューター・同部品（同24.3%減）、エアコン・同部品（同27.7%減）等。一方、自動車・同部品は9カ月連続でプラス（同3.3%増）。他に、鉄鋼（同5.1%増）、半導体・トランジスタ・ダイオード（同28.8%増）、変圧器・同部品（同46.4%増）等も増加した。国別では、主要市場向けが4.2%減。うち、米国が10.0%減、日本が5.0%減、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）が18.1%減、欧州連合が9.3%減とそれぞれ減少した一方、中国向けは14.4%増、ASEAN5カ国向けは4.1%増加した。他に、アフリカ（23.0%増）、南アジア（7.8%増）、ロシア・CIS（33.9%増）向けは伸びた。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10
実質GDP成長率	%	1.4	-	-	2.6	-	-	1.8	-	-	1.5	-
消費者物価上昇率	%	5.9	5.0	3.8	2.8	2.7	0.5	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3
失業率	%	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	21,778	20,250	22,376	27,654	21,723	24,341	24,826	22,143	24,280	25,476	-
輸入額	100万ドル	22,504	24,899	23,490	24,936	23,195	26,190	24,768	24,121	23,920	23,384	-
経常収支	100万ドル	854	-2,446	509	3,964	-240	-3,162	868	-508	401	3,406	-
外貨準備高	10億ドル	216.6	225.5	217.4	224.5	223.5	220.8	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9
主要政策金利	%	1.25	1.50	1.50	1.75	1.75	2.00	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	34.8	33.2	34.1	34.5	34.3	34.3	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

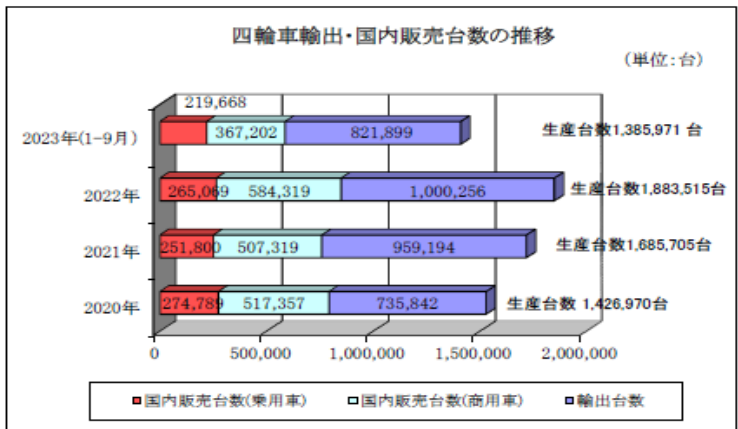
(2023年12月号) 2023/11/30
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

		2020年	2021年	2022年	2023年 (1-9月)	前年同期比 (%)	9月	
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	542,437	599,844	600,839	481,054	115.3	58,126
		商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	904,917	95.6	105,967
		合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	1,385,971	101.6	164,093
	国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	219,668	109.5	25,425
		商用車	517,357	507,319	584,319	367,202	84.8	36,661
		合計	792,146	759,119	849,388	586,870	92.6	62,086
輸出台数		735,842	959,194	1,000,256	821,899	116.3	97,476	
二輪	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	1,638,051	111.1	169,054	
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	1,446,338	106.2	141,455	
	輸出台数	727,152	965,967	1,034,840	601,751	78.9	61,121	
【完成車輸出金額】		(百万バーツ)						
四輪		410,912	561,147	619,348	519,435	119.3	62,451	
二輪		85,802	75,985	73,729	50,348	95.7	4,255	



【メーカー別国内販売台数】											出所:トヨタ自動車	
		2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1-9月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	9月	
トヨタ	乗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	77,357	131.6	35.2	9,922	
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	121,935	81.4	33.2	11,219	
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	199,292	96.5	34.0	21,141	
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	120,294	73.5	32.8	10,898	
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	120,294	73.5	20.5	10,898	
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	43,907	95.5	20.0	4,212	
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	25,975	169.8	7.1	4,901	
	合計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	69,882	114.0	11.9	9,113	
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	4,999	53.4	2.3	413	
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	7,968	98.2	2.2	890	
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	12,967	74.2	2.2	1,303	
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	12,676	77.5	5.8	1,083	
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	13,876	60.4	3.8	1,026	
	合計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	26,552	67.5	4.5	2,109	
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	80,729	115.0	36.7	9,795	
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	77,154	105.5	20.9	7,727	
	合計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	157,883	110.1	26.9	17,522	
合計	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	219,668	109.5	100.0	25,425	
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	367,202	84.8	100.0	36,661	
	合計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	586,870	92.6	100.0	62,086	

